

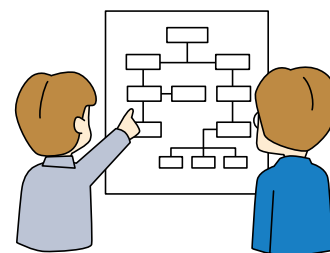
## 夏季のイベント主催者の熱中症対策について準備状況チェックリスト

本チェックリストを参考に、各イベントに応じたアクションリストを作りましょう

### ① イベント企画時 イベント計画時の準備

- 1) 全体計画作成上の注意点
  - ☐ イベント関係者に連携が必要な機関（警察、自治体、消防など）が入っているか
- 2) 傷病者発生時マニュアルの整備
  - ☐ 傷病者発生時の連絡フロー、速報窓口明確化
  - ☐ 傷病者発生場所特定方法、搬送ルート事前設定
  - ☐ 傷病者のための給水・休息施設の設定
- 3) 救護所の設置
 

|                                      |                                      |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 医療統括本部の設置   | <input type="checkbox"/> 救護所設置場所の確保  |
| <input type="checkbox"/> 救護所開設時間の設定  | <input type="checkbox"/> 医療チームの構成の確認 |
| <input type="checkbox"/> チーム役割分担の明確化 |                                      |
| <input type="checkbox"/> 医師          | <input type="checkbox"/> 看護師         |
| <input type="checkbox"/> 救急救命士       | <input type="checkbox"/> ロジスティック     |
| <input type="checkbox"/> 記録体制        |                                      |
| <input type="checkbox"/> 救護記録        | <input type="checkbox"/> 記録写真撮影      |
- 4) イベント中止手順の確立
  - ☐ イベント中止基準の策定、判断者の確認
  - ☐ 自然災害（大雨、落雷、強風、台風、地震、津波）
  - ☐ 人為的な災害（火災、事故、暴動、テロ）
- 5) 危機管理フローの作成
  - ☐ 緊急対応フロー（必要な場合事象を分ける）
  - ☐ 連絡先一覧・連絡シート（必要な場合事象を分ける、救急連絡先の確認）
  - ☐ 掲示用シート、広報資材（コメントひな形＜空欄をチェック・埋める形式＞）準備



### ② イベント準備時 イベント計画の具体化・会場設営時にチェック

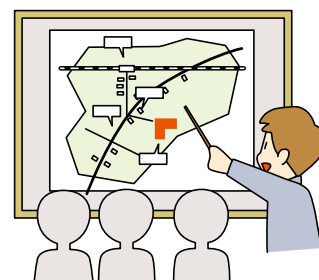
- 1) 運営上の工夫
  - ☐ 待機列を作らない工夫と日陰への誘導の計画
  - ☐ 開場時の混雑緩和のための計画
  - ☐ 終了時の混雑緩和のための計画
  - ☐ 施設（給水所、自販機、売店、救護所）のわかりやすい表示
  - ☐ 休息場所の設置、確保
  - ☐ 飲料の確保、欠品防止策
- 2) 暑熱環境緩和のための設備
  - ☐ 日陰の確保
  - ☐ 地表面の高温化の抑制
  - ☐ 壁面の高温化抑制
  - ☐ 空気・体の冷却
- 3) 暑熱環境の把握
  - ☐ 暑熱環境の悪い場所の特定
  - ☐ 人の混雑度の高い場所
  - ☐ 日射・輻射が強く、風通しの悪い場所
  - ☐ 暑熱環境の測定結果の把握・活用（共有含む）
  - ☐ 暑熱環境データの収集と伝達・広報方法
  - ☐ 基準値に応じた対応策

2) 適切な呼びかけ・啓発の実施—呼びかけ・啓発手段の確保と準備

- ☐ 開催ポスター及び入場時配布資料に熱中症予防策を記載
- ☐ イベントの進行(待機時間、休憩時間)を考慮した呼びかけの計画
- ☐ イベント会場での熱中症予防、早期発見、初期対応策のポスター等の掲示
- ☐ 呼びかけ・啓発内容の事前準備

3) スタッフへの対応

- ☐ 健康診断の受診と結果の整理保存
- ☐ 持病(糖尿病、内服中の持病等)のある方について産業医、主治医に従業についての意見聴取
- ☐ スタッフへの教育(熱中症予防、初期症状、早期発見、初期対応、服装)
- ☐ 空調の効いた休憩所の準備、飲料の準備
- ☐ 勤務場所の暑熱環境の確認(日陰、風通しの良い環境の提供)
- ☐ 暑熱環境に応じたシフト、対策の確認



③ イベント実施時 イベント実施直前・当日チェック

1) 適切な呼びかけ・啓発の実施—呼びかけ・啓発手段の確保と準備

- ☐ 暑熱環境測定結果の放送、会場内掲示、ホームページでの広報
- ☐ イベントの進行(待機時間、休憩時間)を考慮した呼びかけの計画
- ☐ イベント主催者のSNSにより熱中症予防のための情報発信

2) スタッフに対する対応

- ☐ 1週間前くらいからの暑熱順化
- ☐ 対応スタッフの担当エリア・人数の確認
- ☐ 各現場と本部との連絡方法の確認、定期的な連絡実施
- ☐ 暑熱環境確認(屋外ではなるべく風通しの良い日陰で)
- ☐ 空調の効いた休憩場所の準備(空調、スポットクーラー等)
- ☐ 無料スポーツ飲料の提供 ☐ シフトの確認、定期的な安否確認
- ☐ 光反射性、通気性、透湿性のよい制服や帽子の準備
- ☐ 不調な場合は作業からの除外
- ☐ 暑さ指数、気象予報の周知徹底、情報を一元化した上での提供・発信



④ イベント実施後 次回にむけ効果を検証の記録と整理

1) 救護者数(過去の同イベントとの比較) (1万人あたり 人数)

- ☐ 熱中症／救護者数の比率

2) 職員アンケート(評価・改善点を集める)

- ☐ 運営上の問題改善(待機列、混雑緩和、日陰への誘導、救護施設、休憩場、スタッフ配置、給水)
- ☐ 暑熱環境緩和(緩和策<遮光、ミスト、送風>の効果、暑熱環境が悪い場所)
- ☐ 呼びかけ・啓発(事前啓発、イベントでの案内、進行での課題)
- ☐ スタッフへの対応(業務開始時の確認、シフトに無理はないか)  
(給水、休憩、安否確認)、(暑さ指数(WBGT)に応じた対応の効果)

3) 暑熱環境測定

- ☐ 暑さ指数(WBGT)25℃、28℃、31℃の超過期間
- ☐ 暑さ指数(WBGT)31℃における対策の効果(職員アンケートとクロスチェック)